

名 称	佐賀県体験活動・ボランティア活動支援センター (平成18年4月から生涯学習相談(佐賀県立生涯学習センター内))
所在地	〒840-0815 佐賀県佐賀市天神三丁目2-11
連絡先	TEL : 0952-26-0011 FAX : 0952-25-5591 URL : http://www.pref.saga.lg.jp/manabinetsaga/avance/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 佐賀県 862,968人

佐賀県は、23市町（平成18年3月20日現在）、人口862,968人（平成18年4月現在）、面積2,440平方キロメートルで、九州の北西部に位置し、北は玄界灘、南は有明海の2つの海域を有している。

弥生時代最大の遺跡として高い学術的価値を有し、特別史跡となっている吉野ヶ里遺跡、伊万里焼、有田焼、唐津焼など、古い歴史と伝統文化に彩られた佐賀県は、豊かな自然に恵まれた風土の中にある。

佐賀県は、次世代を担う子どもたちに、佐賀県ならではの歴史と文化を体験させるため、県内の全小中学校対象に「オンリーワン」のさが体験活動推進事業を実施し、また、県内の全市町に対しても子どもたちへの体験活動の推進を図っている。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名 称 体験活動支援者養成講座「子どもをひきつけるコツを考える」
 ～大道芸、絵本の読み語り、理科実験から学ぶ～

概 要 近年、学校内外における青少年の体験活動やボランティア活動の重要性が各方面より指摘されるようになった。佐賀県においても、平成16年度から子どもの居場所づくり推進事業が県内全49市町村のうち15市町村40教室で始まり、17年度は、県内全29市町村のうち23市町133教室の取組に広がっている。

地域の教室などで子どもの指導に直接携わっている大人（活動支援者）からは、活動内容の充実とともに、子どもたちの心を引き付ける指導技術を学びたいという要望が出され、体験活動やボランティア活動に関連する講座の一環として、事業をコーディネートし、実施することにした。

主 催 佐賀県立生涯学習センター 共 催 佐賀県社会福祉協議会

後 援 唐津市教育委員会 定 員 各回30人程度

参加者 1回目 37人 2回目 39人 3回目 49人 計 125人

開催日	1回目	佐賀県立生涯学習センター	7. 14 (木) 13:30~16:30
	2回目	佐賀県立生涯学習センター	7. 14 (木) 18:00~21:00
	3回目	唐津市相知交流文化センター	7. 15 (金) 13:30~16:30
	※ 受講者は、上記の3回から選ぶ		

内 容 (各回共通)

シンポジウム「子どもをひきつける“コツ”は？」

【シンポジスト】おはなし会研究者、大道芸人、県立宇宙科学館職員

【コーディネーター】県立生涯学習センター職員

実演「子どものひきつけ方!!～大道芸！絵本の読み語り！実験！～」

演習「技を体得しよう～活動にアクセントを！～」

コーディネートの実際

i) どのようなねらい・目的・どのような方法で

平成16年度末の県子どもの居場所づくり運営協議会の中で、実施された市町村から「活動支援者の方々が子どもたちへの指導や対応に戸惑われている」との反省があった。

そこで、指導者や支援者が子どもたちとの関わり方や話し方、説明の仕方等、子どもを引きつけるコツを学ぶ機会が必要であると考え、講座を開催した。

<開催時期・時間について>

地域で行われている子どもの体験活動は、夏休み以降に行われていることが多かったため、夏休み前の7月に実施することにした。

活動が、水曜日の放課後や土・日曜日に開催されることが多かったため、それ以外の曜日に開催することとした。多くの方が参加しやすいように、昼コース、夜コースを設定し、遠隔地には、出前講座を実施した。

ii) ニーズのコーディネート

<講師の選定に当たって>

指導に当たる外部講師の選定は次の視点で行った。

○大道芸人…口上や芸で通りすがりの人を振り向かせることが必要。

○読み語り…自分の読みで聞く人を集中させることが必要。

○理科実験…一緒に活動をしながらか、説明をしっかりと聞かせることが必要。

<受講者募集に当たって>

募集は県下一斉に行った。

○市町教育委員会、公民館等の生涯学習関連施設を通じての広報。

○共催の県社会福祉協議会から市町の社会福祉協議会及びボランティア推進校への広報。

○佐賀市民活動サポートセンターからNPO法人等市民活動団体への広報。

○各市町の子どもの居場所づくり事業の各教室の指導者や支援者の方への広報。

iii) どのような活動・行事等を実施

プログラムの構成は、「聞いて、見て、やって、考える」という流れを基本に、シンポジウム・実演・演習を行った。

<シンポジウム：子どもをひきつける“コツ”は？>

読み語り…本にはもともと子どもを引き付ける力がある。

本の本質を見極め、対象者に合った本を選ぶことが大切。

読む人が本に対して愛情を持たなければならない。

ページのめくり方や間の取り方等、下準備は大切である。

聞き手に心の準備を促すために、指遊びや歌等も有効である。

大道芸人…見ている方も参加できるような一体感を大切にしている。

大道芸は基本的には口上芸なので、話術は必須であり、話術は練習、準備、経験によって自信が持てるようになる。

わざと弱みや隙を見せて、相手の心の壁を崩すこともあり、失敗も利用する。

理科実験…一期一会なのでミスが許されない。事前の練習は欠かせない。

インパクトのある実験との出会いを心がけている。

目を見て話すこと、挨拶や笑顔が大切であり重要である。

どの講師も準備の大切さとともに、1度だけのチャレンジに終わらせず、自分の個性を活かしたアレンジをしていくこと、相手を忘れないこと、自らを客観的に評価し、次につなげていってほしいというエールが送られた。

<実演：子どものひきつけ方!～大道芸!絵本の読み語り!実験!～>

学んだことが実際に確かめることができ、講師の話を実感することができた。「自分もしてみたいと思った」「シンポジウムで言われていたことがよくわかった」という受講者からの感想があった。

<演習：技を体得しよう～活動にアクセントを!～>

演習では、職員によるレクリエーションを加え、4ヵ所同時進行で行った。

読み語りコーナー…手遊びや簡単な仕掛け絵本作り、読みの練習。

日常行われている読み語りの疑問や本についての情報交換。

大道芸のコーナー…南京玉すだれやジャグリング等の大道芸や手品等についての指導。

理科実験コーナー…実演で行われた偏光板を用いた実験の種明かし。

電池やフィルムケース等の身近材料での実験及び解説。

レクリエーションコーナー…講座の導入に使える簡単なゲームやクイズの紹介。

固定観念を捨て、子どもたちに柔軟に対応しようとのメッセージ。

iv) どのような点に苦慮

- プログラムの進め方や発言の視点等についても講師との打合せを重ねた。
- 受講対象者に情報が届くよう、様々な機関と連携し広報を行った。
- 実演や実技等の活動が十分できるよう、会場の広さの確保や配置を考えた。

v) 成果

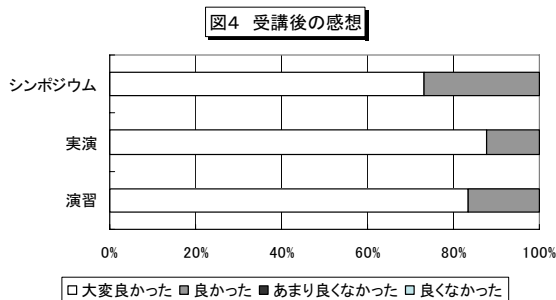
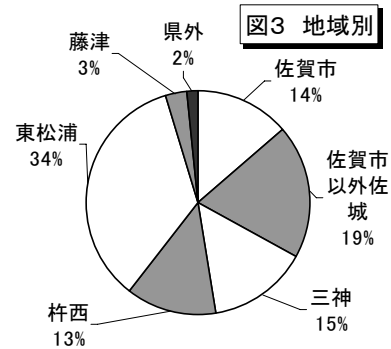
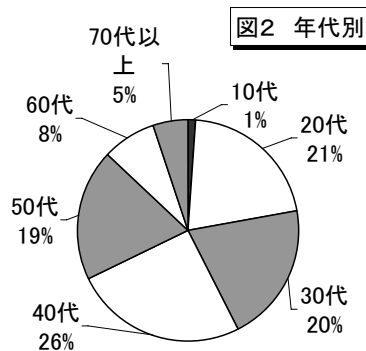
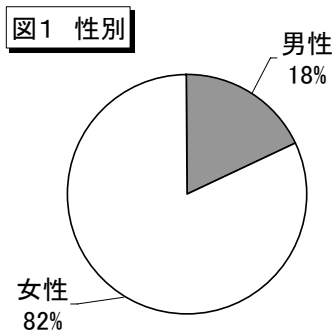
- 定員を上回る受講があり、幅広い年代・各地区からの参加があった。(図1・2・3参照)
- 講座修了後に所属団体で講座の報告会や学習会を実施した受講者もあった。
- アイスブレイク等、学んだことを講座に活かしたという報告があった。
- 受講者からの感想
 - ・準備の大切さ、発見の楽しさ、できることの嬉しさを学んだ。

- ・ 今日学んだことがすぐに活かしていける研修だった。
- ・ 子どもを引き付ける前に、自分自身が本気で楽しむことが必要だと感じた。

vi) 課題、次回の取組への改善点・留意点等

県や市町が行う指導者・活動支援者等の研修会では、安全面の配慮や体験活動事業の必要性を訴えるプログラムが多かったので、平成17年度はあえて「子どもたちの心を引きつける指導技術の向上」に焦点をあてた実践的な講座を企画した。今後も県内で実施される市町レベルや県レベルなど様々な研修会についての情報を収集し、全体のバランスや受講対象となる活動支援者のニーズ等を考慮しながら、他団体と連携協力して研修内容について検討する必要がある。今後も、県の子どもの居場所づくり運営協議会等と連携しながら、内容を検討していきたい。

また、子どもたち向けへの事業を行っているのは、子どもの居場所事業だけではない。NPOやCSO（市民社会組織）の団体も含め、指導者のレベルアップやブラッシュアップの機会を提供していくことが必要であると考えます。



シンポジウム

(*実際には「あまり良くなかった」「良くなかった」の評価はなし。)



読み語りコーナー



大道芸人のコーナー



理科実験コーナー

執筆者職・氏名：佐賀県立生涯学習センター 企画副主任 鶴田 剛大